

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク!



赤い羽根共同募金



# 福祉ちば

2017

3

March

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.173

特集

## 災害に備え、私たちにできることから始める ～流山子育てプロジェクトの防災・減災活動～



地域の福祉活動

[市川市]真間地区社会福祉協議会

エールちば

松戸あんしん電話地域見守り協議会

いきいきかがやく

平成28年度千葉県学生  
ボランティアミーティング実行委員会

美味しさ満開♥福祉の魅(味)力を召し上げれ

手打ちうどん むげん

流山子育て  
プロジェクトによる  
減災MAPシミュレーション  
のワークショップ

→詳しくは  
P2 特集で。

流山子育てプロジェクトの防災・減災活動

災害に備え、私たちにできることから始める

東日本大震災をきっかけに、防災・減災の取り組みを始めた「流山子育てプロジェクト」。子育て中の母親たちが「私にもできる防災・減災」をめざし、防災・減災ノートや外国人向け防災ガイドブックの刊行をはじめ、防災キャラバン隊による出前講座などを通じた啓発活動を行っています。

子育て中の母親の視点にとどまらず、地域の「みんな」の視点で活動する流山子育てプロジェクト代表の青木八重子さんに、これまでの取り組みと、活動を通じた地域への思いを伺いました。



流山子育てプロジェクト 代表  
青木八重子さん

子育て中の母親がもっと学びたいと活動をスタート

流山市は、つくばエクスプレスの開通によって都心へのアクセスがよくなり、子育て世代の若い家族を中心に人口が増加している地域です。「流山子育てプロジェクト」は流山市男女共同参画室が主催し、NPO法人パートナーシップながれやまが企画・運営した講座の修了生が「もっと学びたい」と集まって発足した団体です。平成21年に立ち上がり、13人の子育て中の母親が、男性も女性も生き生きと子育てできるまちづくりに向けて活動してきました。当初はベビーカーで行ける街歩きMAPや、父親の育児参加を応援する冊子を制作したりして

いました。

3.11をきっかけに考えた本当に役立つ防災・減災とは？

防災・減災の活動に取り組み始めたきっかけは東日本大震災でした。私自身、あの日のことは忘れることができません。夫が都内から帰宅することができず、当時、幼稚園児だった娘を絶対に守らなければと、心に言い聞かせました。枕元にリュックサックとスニーカーを置いて寝ようとしたのですが、眠れないまま朝を迎えたことを今でも思い出します。

メンバーの中には母子同士で集まって夜を明かした人もいました。実感したのは「災害時に頼れるのは遠くの親類より近くの仲間」だということ。メンバーそれぞれが大きな不安を抱える中、「子育て中の人にとって本当に役立つ防災・減災対策について学んでみよう」とメンバーで動き始めました。

生き延びるためだけでなく暮らしを継続するための備え

まず、東日本大震災時に帰宅困難となったワーキングマザー・ファザーに、困ったこと、助かったことなどのアンケート調査を行いました。また、消防署や市の防災危機管理課、民間の専門家を招いて勉強会を実施し、各地で開かれる防災

フォーラムへの参加や防災施設の見学などを重ねました。勉強を通して「単に生き延びるためだけでなく、普段の暮らしを継続するために備える」ことの大切さに気づき、私たちの防災・減災の活動の原点としました。

そして、平成26年に『私にもできる防災・減災ノート IN 流山』という冊子を完成させました。災害時に乳幼児のいる家庭で起こり得る様々な問題について家族で考え、書き込みながら整理していく形式の冊子で、避難所に持っていけるよう工夫しました。

わが家の危険箇所をチェックし、持ち出し品や備品のリストを作り、家族の連絡先や地域の情報を書き込んで、家族の顔写真も貼ります。これは、災害時に家族の誰かがはぐれた場合、「この人を見



「私にもできる防災・減災ノートIN流山」と、外国人向け「多言語の防災ガイドブック～私にもできる防災・減災ノートII」

かけませんでしたか？」と写真を見せた方が探しやすいからです。

防災キャラバン隊を結成し老若男女で防災に取り組む

この冊子を活用して、もっと理解を深めてもらおうと結成したのが、防災キャラバン隊「防災寺子屋 sole! (そ〜れ)」です。自治会や子育てサークルなどで出前講座を行っています。自治会の場合、参加者はほとんどが後期高齢者の皆さん。最初は「大地震が来たら私たちは死ぬんだから、防災なんて関係ない」と後ろ向きな発言をされる方もいます。ただ、いざ講座が始まると熱心に耳を傾けてくださり、帰る時には「俺たちもできることをがんばってみよう」と元気に話してくださるのです。子育て中の母親と高齢者が「災害弱者」として共通する部分が多いことも、自治会の皆さんと話をすることでわかってきました。

私たちは子育て中の母親の視点というよりも、男女共同参画の視点で防災に取り組んでいます。男女共同参画というのは、わかりやすく言うと「老若男女」「みんな」ということです。

女性の視点を避難所運営に活かすために声をあげる

特に避難所運営には「みんな」の視点が必要です。大きなストレスがかかる環境では性犯罪が起こりやすいと言われており、実際、東日本大震災の時も残念ながら、女性や子どもが被害に遭いました。女性の視点から「女性のトイレは男性トイレの手前の明るい場所に設置してほしい。数も増やしてほしい」と、声をあげていくことが必要になります。

また、避難所で要介護のお年寄りのケアや、赤ちゃんのお世話を担っているのもほとんどが女性です。ですから、避難所運営に女性の視点が入らないと、お年寄りや赤ちゃんの権利を守ることも難しくなるのです。

日本に暮らす外国人の共通言語が日本語だという事実

「みんな」の視点で防災を考えたとき、日本で暮らす外国人も災害弱者です。外国人向けの防災ガイドブックを編集しようと話が進んだ際、当初は「私にもでき



防災キャラバン隊「防災寺子屋 sole! (そ〜れ)」の講座

る 防災・減災ノート IN 流山」の英訳版を作ればいいのかと、国際交流協会の日本語教室に持参しました。ところが、英文が読める人は皆無で、反対に「やさしい日本語版がほしい」と言われたのです。日本で暮らす外国人の国籍はアジア、南米、アフリカ、欧米など多様ではあっても、共通の言語は日本語なのだという当たり前の事実を知る機会になりました。

そこで小学校低学年を想定した日本語に、英語と中国語の対訳を付けた「多言語の防災ガイドブック～私にもできる防災・減災ノートII」を刊行することにしました。地震や津波がない国の人のため、日本で起きる災害の用語集なども載せました。

防災は人をエンパワーメントする

今回の活動を通して「防災は人をエンパワーメントする（その人が本来持っている生きる力を湧き出させる）」と強く感じています。災害弱者と言われる高齢者は確かに支援を必要とする存在ですが、単に支援されるだけの受け手ではなく、その人なりに果たせる役割があります。例えば、避難所で顔見知りの高齢者が子

どもの世話をしてくれば、母親は安心して用事を足すことができます。

「次に地震が来たらどうせ死ぬんだ。もういいや」という人は、自分の暮らす地域にも関心がありません。それを、防災をきっかけに「あなたにもできることがある」と伝え、背中を押してあげることで、その人の中で変化が起こり、一歩を踏み出すことができると感じています。「私にもできることがある」。地域に暮らす人がそうした思いを持ち、それぞれにできること、やれることをお互いにやっていくことが協働であり、それが地域の絆を深め、地域の力になっていくと信じています。

それぞれの特技を活かす2つの団体のコラボレーション



NPO法人 パートナーシップながれやま 代表  
山口文代さん

私たちは「男女共同参画のまち流山」を目指して活動を展開しているNPO法人です。「流山子育てプロジェクト」は、当団体が企画・運営した講座の修了生が集まって発足した、子育て中の若いお母さんが中心のグループです。

今回の防災・減災の取り組みは、当団体が進行管理や費用面を支援し、「流山子育てプロジェクト」が冊子の執筆・編集作業や、啓発のための講座の企画・運営を担当しています。当団体のメンバーはシニア世代ですので、子育て中のママとは親子ほど年齢が違いますが、世代の異なる団体が一つの目標に向かって、それぞれの特技を活かしながら協働することは意義が大きいと感じています。

流山市は市民活動への支援が充実しており、市民活動が盛んな地域で

す。今後は社会福祉協議会をはじめ、地域で活動している団体とのつながりを深め、流山市をもっと住みやすいまちにしていきたいですね。



子育て世代や男女共同参画の視点での防災・減災の活動が評価され、2つの団体は平成28年、防災功労者内閣総理大臣賞を受賞しました。また、第20回防災まちづくり大賞も受賞しています。



「減災MAPシミュレーション」のワークショップ



# Face to Faceで推進する お互いさまのまちづくり

真間小学校で開催されている子育てサロン「赤ちゃん集まれ」

市川市では、自治会連合会の区域に基づいた14の地区社会福祉協議会があります。真間地区社会福祉協議会(以下、真間地区社協)の活動エリアはJR市川駅の北側に位置する文教エリアですが、市内で2番目に高齢化率が高いという課題を抱えています。地区社協として市内で初めて空き店舗を利用した活動拠点を整備し、お互いが顔の見える地域づくりをめざして、相談活動やサロン活動、防災活動などに積極的に取り組む真間地区社協の活動を紹介します。

## 市川市の「地域ケアシステム」の推進母体として活動

市川市では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、様々な地域活動の連携を図るための仕組みづくりとして平成13年から「地域ケアシステム」の取り組みが進められています。具体的な推進に向けて、①地域の支え合い活動の充実、②身近な相談場所の設置、③行政の組織的な受け皿体制の確立、という3本柱を掲げています。

この活動の推進母体となっているのが14の地区社協です。

## 市からの補助により 空き店舗で拠点を開設

真間地区社協の活動拠点、地域ケア真間



真間地区社協のみなさん。前列中央が小林会長、向かって左が石崎さん

「よってこ」は、平成23年に空き店舗を活用して開設しました。JR市川駅から徒歩圏のわかりやすい場所にあり、サロン活動の会場として使用できるスペースもあります。

それ以前は真間小学校の一室を借りていましたが、学校ということで使用にも制約がありもっと住民が立ち寄りやすい場所をと探していました。ただ、真間地区には公民館もないため、適当な場所が見つかりませんでした。そこで市長宛てに活動実績などを添えて要望書を提出したところ、拠点の家賃が補助されることになり、現在の場所を借りることができたのです。

真間地区社協会長の小林俊之さんは、「拠点の整備は行政のバックアップがあったからこそ。住民が活動していく上でこうした支援は非常に心強いです。真間地区も以前は向こう三軒両隣の関係があったのですが、人間関係が希薄化し、引きこもりがちのお年寄りが増えてきました。そんな中、私たちはFace to Faceで、ここに暮らしてよかったと言えるまちづくりを推進しています」と話します。

## 相談活動に重点を置いて その人に寄り添う

市川市では、地域住民から選出された「相談員」が地域ケアシステムのそれぞれの拠点

に常駐し、住民からの困りごとや心配ごとの相談活動を実施しています。

この相談事業に積極的に取り組んでいるのが真間地区です。真間地区社協では、18名の相談員が交替で、例えば介護が必要になった高齢者や、仕事を探している障がいのある方など、幅広い相談に対応しています。地域に暮らす同じ住民の立場で相談者に寄り添い、できる支援を行っているのです。必要な資料や情報がすぐに提供できるよう、相談項目ごとに関係情報をファイル化するなど、きめ細かい対応もしています。

対応が難しい場合には必ず専門機関につなぎ、その後の状況まで気かけます。「よってこ」は相談窓口としての機能だけでなく、地域の人が気軽に「寄っていいこう」と立ち寄れる場所でもあります。相談をきっかけにお茶のみで寄ってくれる方もたくさんいるとのこと



地域ケア真間「よってこ」

## 住民の協力による 多彩なサロン活動

真間地区社協では多彩なサロン活動が展開されています。真間小学校で月一回実施している「赤ちゃん集まれ」は、乳幼児とその保護者の集い。毎回10数組の親子が参加して、手遊び、誕生月のお祝い、育児相談などを行う中で、横のつながりを作っています。

特に参加者に喜ばれているのが、助産師による母乳マッサージ。授乳についての悩みや不安にも応えています。助産師の方は脳梗塞のため半身まひがあるのですが、「地域のお母さんたちの役に立ちたい」と、毎回、ボランティアで協力されています。スタッフのフルート演奏にのってみんなで「ハッピーバースデー」を歌うのが恒例。赤ちゃんもお母さんもとってもうれしそうです。

また、以前は酒店だったお店で開催している「サロン新川屋」には大勢の男性が集まっておしゃべりやカラオケを楽しんでいます。元店主が高齢のために店を閉じるようになった際、「地域貢献したい」と立ち上げたサロンです。

このほか「いきいき健康教室」「太極拳」なども開催しています。



太極拳

## 困りごとの調査結果を元に 「こまった時の便利帳」を作成

このように地域ケアシステムの取り組みが進んできた中、地区の住民を対象に、日ごろ困っていることについてのアンケート調査を行いました。その報告書を兼ねて作成したのが「真間地区 こまった時の便利帳」。これは単なる報告書ではなく、一つひとつの困りごとに対する回答や相談窓口の連絡先などが載っている便利帳機能と、さらに「買い物に困っている」という声が多かったことから「宅配してくれる商店のリスト」の3部構成になっており、戸別配布したそうです。



## 児童や保護者と一緒 小学校で大規模防災訓練

真間川や真間山がある真間地区社協では、防災アンケートを実施するなど災害対応についても取り組みを進めてきました。平成26年度から県社協の助成事業である「地域福祉フォーラム」を活用し、一年目は真間小学校で全校生徒と保護者、自治会も参加する1,000人規模の防災訓練を行いました。避難の際、自治会ごとに教室に集まるようにしたことで、それまで自分が所属する自治会名を知らなかった児童や保護者に、自治会や地区社協活動への理解を深める大きな一歩になったと言います。

二年目は真間小学校6年生の児童、保護者、自治会、真間地区社協が参加して防災講演会を実施。三年目には真間小学校区「地域防災拠点協議会」が立ち上がり、備品等の整備を進めました。



サロン新川屋

## 2つの協議体として 地域福祉と防災を推進

「地域ケアシステムと地域防災拠点協議会の二つの協議体ができただけで、真間地区の活動にとって大きなメリットになると思います。次の世代を担う人材の育成や、サロンなどに出てこないひきこもりがちの高齢者の見守りなど課題もありますが、これからも行政や市社協と連携を密にしなが、住民参加で地域づくりを進めていきたいですね」と真間地区社協の石崎多加代さんは話します。

真間地区社協が設立して今年で30周年。活動拠点「よってこ」を起点とした取り組みが地域をつなぎ、お互いさまの顔の見える関係がさらに広がっていくことでしょう。



真間小学校の全校児童、保護者、地域住民が参加した防災訓練

市川市社会福祉協議会 TEL 047-320-4002

# 地域づくりを進める専門職、 コミュニティワーカー

市川市社会福祉協議会(以下、市川市社協)のキャッチフレーズは「お互いさまのまちづくり」。そしてコミュニティワーカーは、地域のみなさんが安心して暮らしていけるように、地域づくりを担う地域福祉の専門職です。

平成17年から2年間、市のモデル事業として2名が配置されたことが始まりで、現在は市川市社協が業務を受託し、4人のコミュニティワーカーが市内、東西南北の4つのエリアに1名ずつ配置されています。

市川市の施策である「地域ケアシステム」の構築に向けて、コミュニティワーカーは推進母体である地区社協の活動を活性化・推進するため、サロン活動の助言や支援、関係機関との連携の橋渡しなどを行っています。例えば、ある地区の住民から「介護予防体操の教室を立ち上げたい」という話が出たケース

では、会場の準備やチラシ作りから当日の役割分担について助言するとともに、人材を紹介したり、高齢者サポートセンターに協力・参加してもらうなどの調整を行ったりします。すべてをやってしまうのではなく、そのメンバーで自主運営ができるまで継続的に支援していきます。

市川市社協では14ある地区社協に地区担当職員を配置しており、地区担当職員とともに地区社協の事業の企画立案を支援したり、課題解決に向けて地区担当職員に対してスーパーバイザーとして助言することもコミュニティワーカーの役割です。

複数の地区を担当しているため、ある地区で先駆的な取り組みが行われていれば、その情報を近隣の地区に提供することができます。月1回「コミュニティワーカー連絡会」を開いており、この場で課題等を協議するほか、



市川市社協のコミュニティワーカーのみなさん

コミュニティワーカー相互の情報交換も行っています。

今後、コミュニティワーカーに期待される役割は、市川市社協が推進する「お互いさま事業(生活支援サービス)」の推進です。ゴミ出しができない、買い物ができないといった生活上の困りごとを抱えている方を地域住民が主体となって支える仕組みづくりに向けて、コミュニティワーカーの取り組みがますます注目されています。

※市川市人口：478,542人 65歳以上人口：97,691人 高齢化率：20.4% (平成28年4月現在)

## 地域住民が見守りボランティアとなって主体的に推進する 「あんしん電話」を活用した 高齢者の見守り活動

松戸市では町会・自治会や市民団体が主体となって推進する、「あんしん電話」の仕組みを活用した見守り活動が全市的な広がりを見せています。地縁組織と見守りボランティア、医療機関等が連携しながらセーフティネットをつくる仕組みの特徴と、「あんしん電話」を導入して見守り体制を確立している2つのエリアの取り組みを紹介します。

### 地域住民自らが自分たちのまちを支える仕組み

松戸市で進めている「あんしん電話」は、地域の中で人と人が緩やかにつながりながらセーフティネットをつくる仕組みです。

あんしん電話に加入している利用者宅には、医療機関等に設置したシステム(パソコン)から、週1回安否を尋ねる自動電話がかかります。利用者は大丈夫なら①を、ちょっと心配なら②を、要連絡なら③のボタンを押します。応答



協議会会長の齋藤さん(左)と事務局の小山さん

がなかったケースも含め、必要に応じて医療職が見守りボランティアが連絡したり、訪問して対応します。

操作が簡単で、利用者の金銭的な負担はありません。元気なうちから一人暮らしや夫婦世帯の高齢者を日常的に見守り、体調の変化を見逃すことなく医療や福祉につなげることができます。松戸市では2011年から導入が始まり、現在、市内の7エリアで約400人が加入登録しています。

「あんしん電話」を導入している町会・自治会、市民団体などが集まり、2015年、「松戸あんしん電話地域見守り協議会」(\*)が発足しました。この仕組みを市内に広げるために市と調整したり、導入したいという団体へのサポートを行っています。子育て世代も参加する地域イベントでPRしたり、SNSを使って発信するなど、多世代に向けて広報活動も展開しています。

協議会の会長を務める齋藤正史さんは、「地域の顔見知りのボランティアが、いざという時に駆けつけてくれる距離に

ること、そして常に見守られているわけでもない適度な距離感にあることが、利用者の好評を得ています」とあんしん電話の特徴を挙げます。

協議会の事務局を担っているNPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク(CoCoT)の代表理事、小山淳子さんは「あんしん電話を通じて、このように顔の見える関係にあるつながりを、増やしていきたいです」と今後の目標について話します。そのためには、地域住民や地域にある団体や組織、社会福祉協議会など、様々な関係者が自分ができることを出し合っていくことも大切とのこと。

現在、協議会では、あんしん電話の導入・加入等の相談を受け付ける「松戸あんしん電話ほっとライン」を設置しており、市外や県外からも連絡があるそうです。自分たちのまちを自分たちでつくる取り組みが、少しずつ、しかし着実に広がりを見せています。

※2017年春から法人化し、一般社団法人あんしん地域見守りネットを設立する予定。

### 松戸あんしん電話地域見守り協議会

#### 「あんしん電話」の仕組み

あんしん電話は人と人とを緩やかにつなぎ、市民の手でコミュニティの再生を図るきっかけになります。



●この仕組みは、千葉県松戸市常盤平の堂垂伸治医師(どうたれ内科診療所院長)が、通院する独居高齢者の健康状態を見守るために考案したシステムが発端となり広がりました。

■問合せ先/地域活性化センター松戸(松戸あんしん電話地域見守り協議会事務局) TEL: 047-711-7445  
松戸あんしん電話ほっとライン TEL: 0120-386-117

### 高齢化率60%の団地でサロンを拠点に見守り活動

梨香台団地は1975年に建てられた963戸のUR団地で、高齢化率は約60%。団地内のショッピングセンターには空き店舗が並び、買い物難民の課題が深刻化していました。

そんな折、東日本大震災が発生。互いに支え合う必要性を痛感した住民が、有志で空き店舗を活用したサロンを開設し、その運営を



アイギスのみなさん。右から代表の穴戸さん、副代表の齋藤さん、左から二人目が見守りボランティアの野寺さん

行うNPO法人アイギスが設立されました。運営スタッフは6名の女性。年中無休のサロンでコーヒーや軽食を提供しているほか、生鮮食品や日用品も販売しています。利用者の自宅を訪れ、ちょっとしたお手伝いをするこも。

「認知症の方の利用も多いです。スタッフで見守りながら、必要な時には地域包括支援センターの職員などに連絡しています」とアイギスの代表、穴戸やエ子さん。活動を進める中で、様々な機関や関係者がアイギスの良き理解者となり、連携して活動できるようになったと言います。

ですが、すべての高齢者がサロンに足を運ぶわけではありません。アイギスで「あんしん電話」を導入したきっかけは、団地内で孤独死が起きていたことでした。住民になじみの梨香台診療所にシステムを設置し、現在30名ほどの高齢者が利用していますが「引きこもりがちな高齢者は他にもいらっしゃるから」と、見守りボランティアの野寺テル子さんは、



サロンは住民の日常にかかせない存在となっています

勧誘活動にも尽力しています。

アイギスの副代表、齋藤久子さんは、「あんしん電話の利点の一つは、認知症の発症に早く気づくこと。今まで操作できていた方にミスが目立つようになります」と言います。気づいた時には、これまでの連携を生かして必要な機関につなげています。

大勢の住民が交流するサロンを拠点に、あんしん電話の緩やかにつながりを取り入れた見守り体制が確立されています。

### 町会が中心となって自主運営の仕組みを構築

戸建中心の閑静な住宅街を管轄とする幸谷町会では、町会が率先して「あんしん電話」のシステムを導入して自主運営の仕組みを構築し、2011年から活動しています。システムを設置する診療所も町会で探し、初期費用や電話代も町会が負担。個人情報の取り扱いも、運営規約で細かく決めてあ



幸谷町会のみなさん。前列中央が大竹さん、2列目の左から2人目が松本さん

ります。利用者は現在44名。

幸谷町会では5つのエリアを設定し、各エリアに2人ずつ「幸谷あんしん電話ボランティア」(以下、ボランティア)を配置しています。ボランティアはシステムを通じた依頼があった時に加えて、利用者宅を月1回定期的に訪れて見守りを行っています。会話を楽しむ中で利用者の変化に気づき、何かしらの対応につながることもあるそうです。

また、ボランティアは2か月に一回、定例会議を行って情報交換や個別ケースの検討を行っています。活動中の不安や疑問を一人で抱え込まずにすむため、安心して活動が行えます。

なお、「〇〇さんが二日間、電話に出ない」といった診療所からの情報は、ボランティアの取りまとめを行うリーダー役を介して担当のボランティアに伝えられています。リーダー役の松本浩子さんは、「病気は診療



定例会議での意見交換は、みんなで問題を考える貴重な機会

所などでしか対応できませんから、私たちができるのは、本当に見守りの部分だけ。ですが、活動を通して利用者とは自然と気心の知れた関係になるので、風邪で寝ていると聞けば、買い物を代行したり、ちょっとしたお手伝いもしています」と話します。

幸谷町会会長の大竹久之さんは「近所で助け合うことはとても大事なことで、利用者からも「安心で心強い」と活動を喜ばれています」と活動の大切さを感じています。町会のイベントの場で活動のPRを行ったり、ボランティアの後継者探しにも尽力しています。

いきいきかがやく

平成28年度千葉県学生ボランティアミーティング実行委員会

学生のボランティア活動推進に向けて  
学生自身がイベントを企画・運営!

twitter https://twitter.com/univvolunteer1

facebook http://fb.com/1507085956253714

千葉県社会福祉協議会（以下、県社協）では、大学生や高校生など若者を対象として、ボランティア・社会貢献活動の推進イベントを開催しています。イベントは、県内大学の学生による実行委員会形式で企画・運営を行っており、今回はその「平成28年度千葉県学生ボランティアミーティング実行委員会（以下、実行委員会）」の取り組みを紹介します。

学生の思いや考えを形にするため  
実行委員会を立ち上げ

県社協では、地域におけるボランティア・市民活動の新たな担い手の育成に取り組んでおり、その一環として平成25年度より「大学生等のボランティア・社会貢献活動推進セミナー」を開催しています。

セミナー開催にあたっては多くの学生に参加してもらいたく、学生の視点から見て、より興味を持てる内容、そしてボランティア活動に親しみを感じることができる内容とする必要がありました。それには学生自身の意見を企画時から積極的に取り入れていくことが何よりも必要であると考え、平成26年度からは県内の大学より学生を推薦いただき、十数名の学生実行委員会形式で企画・運営を行っています。



最初の年は、県社協で考えたセミナーのプログラム内容に、実行委員から意見をもらう形で企画を進めましたが、2年目以降は実行委員の思いや考えをより具体化するため、セミナーに拘らず、イベント名からイベント内容まで

ですべて、一から実行委員が考え、決定しています。なお、今年度のイベント名は実行委員の熟考の結果「千葉県学生ボランティアミーティング」となりました。

様々な経験を持つ学生が  
集まり企画

イベントの開催時期は例年、学生が春休みに入る2月としています。今年度の実行委員となった学生も、10月に初めて顔合わせを行い、そこから月に1~2回の実行委員会を重ねて、時間を惜しまず本番に向けて熱い議論を交わしながら企画を作り上げていきました。ほとんどの委員同士が初対面でしたが、さすがの学生パワーを発揮してすぐお互い打ち解け、真剣な中にも笑いの絶えない実行委員会が開催されていました。

県内複数の大学から集まった実行委員は、学年も学部も経験も様々。全員がボランティア経験者でしたが、互いに話をする中で



イベント宣伝のチラシも実行委員がデザイン!



平成28年度実行委員会

川村学園女子大学・敬愛大学・千葉大学・千葉科学大学・千葉商科大学・東京成徳大学・和洋女子大学の皆さん

「そんなボランティアの分野があったとは知らなかった」という声が聞こえたりと、他大学の学生から学ぶことも多いようです。

今後も大学や学生と連携して  
学生のボランティア活動を推進

実行委員の熱意の伝わるイベントに、参加者からも毎年好評をいただいています。イベントを通じて実際にボランティア団体とつながる参加者も出てきています。

また、実行委員会形式による企画・運営については実行委員自身からも良い評価をいただけており、推薦によらず次年度の実行委員会に参加してくれる学生がいたり、後輩を誘って参加してくれる学生がいたり、心強い存在が増えています。

県社協では、今後もこうした学生ボランティアの輪をより広げていくことができるよう、大学や学生との連携を深めながら事業を推進していきたいと考えています。

■問合せ先/千葉県社会福祉協議会  
ボランティア・市民活動センター  
☎043-204-6010

参加者の声 ~当日のアンケート結果より~  
■ボランティアに対するイメージをやわらかくしてくれる場だった  
■ボランティアの知識や考えを深めることができた  
■学生実行委員会のおかげで楽しく参加できた  
■大学・高校関係なくディスカッションできて良かった

実行委員の声  
■委員の企画が全て通り、自分たちで作っている感じがした  
■普段なら知り合えない人たちと色々な話し合いができて楽しかった  
■イベントでは参加者と実行委員が一緒になって楽しめた  
■参加者が盛り上がりを見ている姿を見て、やってよかったと心から思った



ボランティアサイコー!!

「平成28年度千葉県学生ボランティアミーティング」の開催にあたっては、東京成徳大学からの寄付金を一部充当しています

広がれ、こども食堂の輪!  
全国ツアー in ちば  
に500人が参加



6人に1人の子どもが貧困状況にあるとの調査結果が公表される中、各地で様々な取組みが始まっている「こども食堂」。

その取組みを県内に広げようと、ちばこどもおうえんだん、千葉県社会福祉士会と本会の主催により1月15日「広がれ、こども食堂の輪! 全国ツアー in ちば」を千葉市内で開催しました。

当日の会場は、こども食堂への関心の高さを示すように、行政や福祉・教育関係者をはじめ、大学生、子ども連れの主婦などで500席が満員となりました。

ツアーでは、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長の栗林知絵子氏による講演、こども食堂運営団体の代表者らによるパネルディスカッション、生活困窮世帯等へ支援を行っている実践者によるリレートークのほか、会場の外でも、各団体によるポスターセッションの場や相談コーナーを設けるなど、様々な工夫を凝らしました。会場の熱気から、今後の活動の広がりを予見させる1日となりました。

【お問い合わせ先：地域福祉推進班 TEL.043-245-1102】

千葉社協職員連絡協議会が  
熊本へ支援金を贈呈



熊本県社協 松葉常務理事(左)へ贈呈

平成28年4月に発生した熊本地震を受け、県内社協職員で組織する千葉社協職員連絡協議会では、「くまモン」のロゴを盛り込んだオリジナルネックストラップを製作・販売し、製作費を除いた売上金の全額483,649円を「支援金」として4社協(熊本県社協、熊本市社協、西原村社協、益城町社協)に贈呈しました。

熊本県社協の松葉成正常務理事からは、社協職員同士の支援に対する感謝の言葉をいただくとともに、仮設住宅が建設されている県内15の社協が「地域支え合いセンター」を設置し、相談受付やアウトリーチ、コミュニティづくり等の被災者支援を行っている旨の説明がありました。

熊本県内では、29年1月現在、大津町(土曜日のみ)と益城町(金・土曜日のみ)で災害ボランティアセンターが設置されており、支援活動が継続されています。



西原村地域支え合いセンター

【お問い合わせ先：地域福祉推進班 TEL.043-245-1102】

PICK UP  
県社協!

平成28年度賛助会員(個人・法人)のご紹介

賛助会員として、本会の活動にご賛同いただいている企業・団体等の皆様をご紹介します。多大なるご支援に感謝申し上げます。

- 株式会社群英工務店
- 株式会社エイジス
- 近代住機株式会社
- 京成トラベルサービス株式会社
- 株式会社京葉銀行
- 三栄メンテナンス株式会社
- サンエス警備保障株式会社
- 三陽メディア株式会社
- 淑徳大学地域連携センター
- 新日鐵住金株式会社津津製鐵所
- 鈴木公夫(個人)
- 株式会社千葉銀行
- 千葉県道路公社
- 公益財団法人ちば県民保健予防財団
- 株式会社千葉興業銀行
- 株式会社千葉ステーションビル
- 千葉みらい農業協同組合
- 日本アトマイズ加工株式会社
- 東日本資源リサイクル株式会社
- 株式会社文化堂
- 株式会社幕張メッセ
- J F E スチール株式会社東日本製鉄所
- T K C 千葉会
- その他(12の企業・団体)

※五十音順・敬称略



賛助会員  
募集中!

千葉県社会福祉協議会の活動に賛同し、資金的な援助をしていただく賛助会員(個人・法人)を募集しています。ご賛同いただける場合には、総務部までご一報いただければ会員制度の詳細をご説明いたします。また、本会ウェブサイト [http://www.chibakenshakyo.com/] も併せてご覧ください。

【お問い合わせ先：総務部 TEL.043-245-1101】

開催報告

平成28年度 千葉県学生ボランティアミーティング ~ボランティアは地味にスゴイ!役に立つ~

平成29年2月19日(日) 10:00~16:00 @千葉大学 実行委員も含めて48名の大学生・高校生の参加がありました!

①まずはレクリエーション。  
ゲームでグループメンバーと仲良くなるよ!

②ボランティアのイメージって?  
「ボランティアとは○○である」  
○に入る言葉を考えながら、グループ内で話し合っイメージを深め、共有しよう。

③クイズで、ボランティアの知識を深めよう。  
5人で「5本指」になって、じゃんけん大会!  
マルだと思うチームは左に、ハズだと思うチームは右に!

④ボランティアからたをつくらう!  
ボランティアをテーマにした読み札を考えることで、メンバー間でボランティアの経験や知識、イメージについての話が飛び交います。

⑤もう一度、ボランティアのイメージについて考えてみよう。  
クイズやかるたづくりを通して、新たなイメージが生まれてきました。

⑥ボランティア活動紹介。  
5団体の学生さんに発表してもらいました。

イベント終了後は、発表者に詳しく話を聞きたい参加者がたくさん!

かるたを作ったあとは...いざ、かるた大会!



平成28年度  
歳末たすけあい募金ご協力ありがとうございました

平成28年度歳末たすけあい募金運動にご協力いただきありがとうございました。  
市町村歳末たすけあい募金は、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすため、NHK歳末たすけあい募金は千葉県内の社会福祉施設利用者のために活用させていただきます。募金にご協力いただいた皆さま、募金活動にご支援いただいた皆さまに、厚く御礼申し上げます。

歳末たすけあい街頭募金（習志野市）  
習志野市社会福祉協議会マスコット  
ふくっぴーが参加



共同募金運動は今年度から  
厚生労働省の告示により  
3月31日までが  
運動期間となりました

平成28年度歳末たすけあい募金額  
245,637,360円(平成29年1月末現在)

市町村歳末たすけあい 222,312,765円  
NHK歳末たすけあい 23,324,595円

くみくみスロープとワニさんシーソー  
ありがとうございました。  
みんな楽しく遊べて嬉しかったです。  
新しい整りだぬにおかたづけができて  
お部屋がきれいになりました。  
ありがとうございました。

NHK歳末たすけあい助成 療育用遊具・整理棚の購入  
障害児通所支援（市原市） 子どもステーション牛久



共同募金へのご寄付は税制上の優遇措置が受けられます

法人からのご寄付 共同募金に対するご寄付は、全額が特別損金として算入できます。  
個人からのご寄付 2,000円を超える額が寄付金控除の対象となります。  
【税制優遇をお受けいただく場合、確定申告の際に領収書の添付が必要となります。】

“つかいみち”を選べる  
使途選択募金

3月31日まで受付中

- 生活困窮者に対する支援……ホームレスの自立支援活動等
- 子どもに対する支援……虐待の防止、不登校・ひきこもりに対する相談・支援
- 子育てに対する支援……保護者の悩みに対する相談・支援等
- 高齢者に対する支援……見守り活動、認知症の理解と予防等
- 自殺を考えている人に対する支援……相談、予防活動等
- 犯罪被害者に対する支援……犯罪被害者に対する相談・支援等
- 被災者・被災地支援……心のケア推進事業、被災者交流事業等  
手数料無料の振込用紙を当会HPよりダウンロードいただけます。  
詳しくは下記までお問合せください。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

千葉市中央区千葉港4-3 社会福祉センター2F  
TEL: 043-245-1721 FAX: 043-242-3338  
E-mail: c-kyuubo@akaihane-chiba.jp  
http://www.akaihane-chiba.jp/



赤いはね ちば

『募金もプレーも千葉のために』

千葉ロッテマリーンズと千葉県共同募金会が協働



共同募金運動70年を記念し、千葉県共同募金会と千葉ロッテマリーンズによる協働ポスターを作成しました。また、昨年9月に行われた、ロッテの選手が千葉県民のために戦うイベント「ALL For CHIBA」の試合会場では募金運動を実施。来場したファンの皆様に「じぶんの町を良くするしくみ。」である赤い羽根共同募金をPRしました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



スーちゃんとM☆ Splash!!の皆さんが募金の応援



赤い羽根募金オリジナルポスター



募金にご協力いただいた方にオリジナルステッカーを配布

地域の情報ひろば

精神障がい者ピア・サポーター養成講座【成田市】

■日時：平成29年3月19日(日) 13:30~15:30  
■場所：成田市保健福祉館  
■対象：どなたでも参加可能です  
■主催：成田市社会福祉協議会  
■内容：テーマ：「オープンダイアログというフィンランド発の精神科治療について」  
【講師】精神科医 森川すいめい氏  
ピア・サポーターを志す当事者の方向けの講座ですが、講座開催を記念した一般公開の講演会です。フィンランドで実践されている、精神科の病いが悪化した際に薬を第一選択とするのではなく、専門職が複数で当事者の自宅等に出向いて対話によって症状を改善していく取組みを学びます。また、当事者と支援者間の関係性や望ましい支援の在り方について学ぶ内容です。  
■参加費：無料  
■参加方法：申込み不要。当日、会場へお越しください。  
■問合せ先：成田市社会福祉協議会 前林 ☎0476-27-7755

第4回花桜菜まつり・第3回桜ウォークラリー【八街市】

■日時：平成29年4月2日(日) 10:00~15:00  
■場所：社会福祉法人光明会 就職するなら明朗塾(八街市八街に20番地)  
■対象：どなたでも  
■主催：社会福祉法人光明会、八街市社会福祉協議会  
■内容：「土に親しみ、花を愛でる、人がつながる」  
花桜菜まつり：日本の春を祝福しよう。  
桜ウォークラリー：市内桜の名所を巡るウォークラリー。  
しらとり太鼓、新舞踊、立身流演舞、「つくね」パフォーマンス、茶道ほか体験多数  
■参加費：桜ウォークラリー500円(保険料込み)  
■参加方法：事前にエントリーシートでお申込みください。  
■問合せ先：社会福祉法人光明会 就職するなら明朗塾 ☎043-442-0101(担当：兼坂 浩)

福祉子どもまつり【茂原市】

■日時：平成29年5月14日(日) 10:00~14:00  
■場所：茂原市総合市民センター  
■対象：どなたでも  
■主催：茂原市社会福祉協議会  
■内容：ステージパフォーマンスなどの野外プログラム、福祉体験、社協オリジナル焼きそば「ふくそば」をはじめ模擬店多数出展、福祉ウォークラリー、子ども工作教室コーナー、バザー、子ども緑日など、子どもから大人まで楽しめるイベントが盛りだくさん。  
■参加費：無料  
■参加方法：直接ご来場ください(申込み不要)※駐車場はお問い合わせください。  
■問合せ先：茂原市社会福祉協議会 ☎0475-23-1969

介護福祉士等の資格保有者を生涯支える  
離職時の届出制度が4/1スタート

社会福祉法の改正により、平成29年4月1日から介護福祉士資格をお持ちの方は、離職時に千葉県福祉人材センターに届出ることが努力義務となりました。ぜひご登録ください。

【対象資格】  
・介護福祉士

※次の研修を修了された方もご登録ください。

【対象研修】  
・介護職員初任者研修  
・介護職員実務者研修  
・旧ホームヘルパー養成研修1級・2級課程  
・旧介護職員基礎研修を修了された方

■問合せ先：千葉県福祉人材センター  
☎043-222-1294  
ホームページ http://chibakenshakyō.net/



(平成28・29年度) 社会福祉施設 経営相談専門家相談カレンダー 秘密厳守 相談無料

月	会計(税理士・公認会計士)	労務等(社会保険労務士)	法律(弁護士)
3月	6日(月)・21日(火)	1日(水)・15日(水)	8日(水)・22日(水)
4月	3日(月)・17日(月)	5日(水)・19日(水)	12日(水)・26日(水)
5月	1日(月)・15日(月)	17日(水)	10日(水)・24日(水)

◎要予約。一般相談・予約は☎043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで  
※「福祉のことこころの相談」もおこなっています☎043-222-1116(平日10時~18時)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成29年度  
全国200万人  
加入!!

保険金額		Aプラン		Bプラン		
ケガの補償	死亡保険金	1,320万円		1,800万円		
	後遺障害保険金	1,320万円(限度額)		1,800万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		10,000円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円	外来の手術	32,500円
賠償責任	通院保険金日額	4,000円		6,000円		
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ				
	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)				
賠償責任(対人・対物共通)	5億円(限度額)					

年間保険料(1名あたり)		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp  
ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)  
送迎サービス補償 (傷害保険)  
福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
(引受幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



海上自衛隊下総航空基地のすぐそばに、2012年、オープンした手打ちうどんの店。全20席で小上がりもある、明るい雰囲気のでしつらえです。



鴨南蛮うどん

定番の天ぷらうどん、ぶっかけうどん、カレーうどんのほか、寒い季節には鍋焼うどんも人気。おすすめは生の鴨肉を使った鴨南蛮と鴨せいろです。鴨肉は冷凍でなく生肉を使用しているため、やわらかくてジューシー。



鴨飯膳、温玉のった鴨飯とうどんのセット



ゴマ汁うどん、すりたての風味豊かな小麦の香りを堪能できます

## コシの強い、モチモチの絶品うどん

完全手打ちだからこそその味わい  
風味豊かなめんつゆも自慢です

# 手打ちうどん むげん

(運営：NPO法人手打職人集団 むげん)

柏市

- 〒 柏市藤ヶ谷1196-20
- ☎ 11:00 ~ 14:30
- ☎ 04-7128-6789
- 📅 日曜日、祝祭日
- 🚗 駐車場10台



障がいを持つ人が地域の一員として自立していくためには、手に職を持ち、その職を通して自信を得ることが大切だという考えのもと、現在16名の方を受け入れています。すべての工程を一人でできる方もいれば、切ることが苦手な方や、切るだけ上手にできる方もいます。そこで、一人ひとりの持ち味を伸ばし、苦手なことは少しずつ克服できるように支援しています。施設長の近池豊子さんは「私たちは福祉施設として地域とつながり、地域のお役に立つことをしたい」と考え、柏市社協と協力して地域住民が利用者と一緒におうどんを作るイベントを開催しています。また、市民団体と一緒に障がい児を対象とした手打ちうどん教室も開催しています。



ぶっかけうどんの超大盛

小麦粉と塩水を混ぜる「水回し」、「足踏み」、麺棒で生地を伸ばす「伸ばし」、特殊な包丁を使う「切り」まで4つの工程を、利用者みなさんが担っていました。製麺機を全く使わない完全手打ちだからこそ、シコシコと弾力があり、小麦の風味が感じられるうどんが味わえます。めんはきしめん風の平打ち。上質の鰹節をそのつと削って出汁を取っためんつゆは、うま味と香りが秀でてます。法人名の「むげん」は、「仕事を通して無限の可能性を追求する」ということから。利用者の男性は「将来は、自分のお店を持ちたい」と話してくれました。一人ひとりが夢の実現に向けて生き生きと働いているお店です。



店内の壁には利用者の一人、岡本太太さんの描いた絵が飾られています。

FUKUSHI-JOB SEARCH  
**福祉のお仕事**

千葉県福祉人材センター  
TEL.043-222-1294

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>



編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会 平成29年3月1日発行

〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番3号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201  
<http://www.chibakenshakyo.com>

広報誌「福祉ちば」の発行には、一部共同募金の配分金を充当しています。